

1. 科目名 (単位数)	教育相談 (カウンセリングを含む) (初等・幼) (2単位)	3. 科目番号	SJMP3314
2. 授業担当教員	八重樫 幸雄		
4. 授業形態	講義・演習 (ディスカッション、グループ学習)	5. 開講学期	春期
6. 履修条件・他科目との関係	<ul style="list-style-type: none"> <li>・アサイメント 事前学習、事後学習で取り組んだ内容を毎回のアサイメントシートに記述する。</li> <li>・レポート課題 教育相談 (カウンセリングを含む) の講義を通して、教育現場で取り組む教育相談について、自分とすることができることは何かを考え、レポートにまとめる。1200字程度</li> </ul>		
7. 講義概要	<p>教育相談とは、幼稚園・小学校や中学校・高等学校など教育現場において、幼児・児童・生徒のこのころの問題を扱うだけでなく、幼児・児童・生徒を取り巻く家族や友人状況、地域・家庭の教育力の低下等、家庭や社会環境の変化なども考慮しながら進められていく、教育現場における心理的な支援活動である。本授業では、教師あるいはスクールカウンセラーが行う教育相談活動について、幼児・児童・生徒を理解するために必要な知識や方法およびカウンセリングを含めた実際の介入方法などについて、知識を深めロールプレイや討論も交えながら実践力を身につけることを目的とする。</p>		
8. 学習目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1.教育相談の意義と目的、内容と領域について理解し、説明することができるようになる。</li> <li>2.教育現場における教育相談の基本的視点、展開の方法について理解し、説明や討論 (事例検討も含める) をすることができるようになる。</li> <li>3.教育相談を効果的に展開するため、枠組みとなる代表的なカウンセリングの理論と技術について理解し、説明やロールプレイをすることができるようになる。</li> <li>4.教育相談の治療的、予防的、開発的側面や現代の諸課題について理解し、説明や討論をすることができるようになる。</li> </ol>		
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・アサイメント 事前学習、事後学習で取り組んだ内容を毎回のアサイメントシートに記述する。</li> <li>・レポート課題 教育相談 (カウンセリングを含む) の講義を通して、教育現場で取り組む教育相談について、自分とすることができることは何かを考え、レポートにまとめる。1200字程度</li> </ul>		
10. 教科書・参考書・教材	<p>【教科書】 石川正一郎・藤井泰編著『エッセンス学校教育相談心理学』北大路書房, 2013。</p> <p>【参考書】 蓮見元子編著『教育相談—子どもの理解とカウンセリング—』大学図書出版, 2012。 文部科学省『生徒指導提要』教育図書, 2010。</p>		
11. 成績評価の規準と評定の方法	<p>○成績評価の規準</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 教育相談の意義と理論を理解し、説明できるか。</li> <li>2. カウンセリングに関する基礎的・基本的事項を理解し、説明やロールプレイをすることができるか。</li> <li>3. 教育相談の具体的な進め方やポイントを理解し、組織的な取り組みや他機関との連携の必要性、現代の課題を把握して説明や討論 (事例検討も含める) をすることができるか。</li> </ol> <p>○評定の方法</p> <p>授業への積極的参加度、日常の学習状況、レポート等を総合して評価する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 授業への積極的参加 (発言、討議、態度、課題シートへの取り組み) 総合点の 50%</li> <li>2. レポート (小論文、中間レポートを含む) 総合点の 50%</li> </ol> <p>上記のほか、本学の規定である 3/4 以上の出席が単位取得の条件であることも配慮する。</p>		
12. 受講生へのメッセージ	<p>教育現場では、いじめ、不登校、非行、発達障害、その他様々な教育上の課題がある。本講義では、教育相談の理論と方法を理解し、教育相談を実践するための基本的な視点を学んでほしい。ロールプレイなど演習を多く行い、援助者と被援助者の思いや願いを感じられるように授業を進める。ディスカッションで受講者同士の考えを交流する機会を設定し、教育相談的援助の対応策を具体的に考えられるような授業を構成していきたい。そのために、受講生の主体的な受講態度を期待している。</p>		
13. オフィスアワー	第1回の時に知らせる。連絡先 yuyaegas@ed.tokyo-fukushi.ac.jp		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第1回	オリエンテーション (シラバスの確認) 教育現場における子どもの心の問題や子どもを取り巻く保護者・教師など様々な環境の問題について、教育相談でどんなことを学んでいくのか、見通しを立てる。	事前学習	シラバスを読んでおく。教育に関するニュースの中で関心をもった事柄を整理しておく。
		事後学習	今後の授業内容について理解し、本講義で学ぶことや自分の関心のある授業内容を説明できるようにまとめる。
第2回	教育相談の意義 教育相談とは何かを知り、教育相談の予防・開発的な面と治療・矯正的な面を把握する。	事前学習	教科書 pp. 2~6 を読んで、教育相談の意義について調べ、説明できるようにしておく。
		事後学習	教育相談と生徒指導で学んだ内容について、ポイントをまとめる。
第3回	教育相談と生徒指導 教育相談の歴史を検討しながら、教育相談と生徒指導のあり方を学ぶ。	事前学習	教科書 pp. 6~12 を読んで、教育相談と生徒指導の違いについて調べ、説明できるようにしておく。
		事後学習	教育相談と生徒指導で学んだ内容について、ポイントをまとめる。
第4回	来談者中心カウンセリングとカウンセリング・マ	事前学習	教科書 pp. 13~22 を読んで、来談者中心法やカウンセリング・マインドについて調べ、説明できるよ

	インド 来談者中心カウンセリングの意義を知り、子どもに対する教師の態度や姿勢として必要とされるカウンセリング・マインドについて理解し、受容・傾聴・共感的理解について学ぶ。		にしておく。
		事後学習	来談者中心カウンセリングで学んだ内容やカウンセリング・マインドの重要性について、ポイントをまとめる。
第5回	開発的カウンセリング 開発的カウンセリングとは何かを知り、構成的グループ・エンカウンターやアサーション・トレーニングについて学ぶ。	事前学習	教科書 pp. 23～31 を読んで、開発的カウンセリングについて調べ、説明できるようにしておく。
		事後学習	開発的カウンセリングと構成的グループ・エンカウンターやアサーション・トレーニングについて学んだ内容について、ポイントをまとめる。
第6回	さまざまな心理療法 教育相談に役立つ心理療法について、精神分析、ユングの理論、行動療法、認知行動療法、箱庭療法などの概略を知る。	事前学習	教科書 pp. 32～45 を読んで、さまざまな心理療法について調べ、説明できるようにしておく。
		事後学習	さまざまな心理療法で学んだ内容について、ポイントをまとめる。
第7回	パーソナリティ パーソナリティという概念について知り、パーソナリティ理論の類型論と特性論について学ぶ。	事前学習	教科書 pp. 48～56 を読んで、パーソナリティという概念について調べ、説明できるようにしておく。
		事後学習	パーソナリティ理論の類型論と特性論で学んだ内容について、ポイントをまとめる。
第8回	発達と教育相談 発達とは何かを知り、発達段階についての諸理論を学ぶことにより、幼児児童生徒を理解し適切にかかわるためには発達途上にある子どもの特性を知っておく必要があることを理解する。	事前学習	教科書 pp. 57～68 を読んで、発達について調べ、説明できるようにしておく。
		事後学習	発達とは何か、発達段階についての諸理論で学んだ内容について、ポイントをまとめる。
第9回	発達障害と教育相談 発達障害とは何かを知り、高機能自閉症、アスペルガー症候群、ADHD、学習障害のそれぞれの特性について学ぶ。	事前学習	教科書 pp. 69～78 を読んで、発達障害について調べ、説明できるようにしておく。
		事後学習	発達障害とは何か、高機能自閉症、アスペルガー症候群、ADHD、学習障害のそれぞれの特性について、ポイントをまとめる。
第10回	心の問題と教育相談 心の問題の種類について知り、統合失調症、気分障害、摂食障害、不安障害、チック、自傷行為、心身症、緘黙症などの概略を学ぶ。	事前学習	教科書 pp. 79～89 を読んで、心の問題について調べ、説明できるようにしておく。
		事後学習	心の問題と教育相談で学んだ内容について、ポイントをまとめる。
第11回	教育相談における心理テストの活かし方 子どものアセスメントの重要性を理解し、さまざまな心理テストの概略を知り、その活用について考える。	事前学習	教科書 pp. 90～109 を読んで、心理テストについて調べ、説明できるようにしておく。
		事後学習	教育相談における心理テストの活かし方で学んだ内容について、ポイントをまとめる。
第12回	不登校・不登園と教育相談 不登校の定義を知り、不登校・不登園の児童幼児への対応について理解し、資料（事例）について教育相談を行う際の目標の立て方や進め方について考え、グループディスカッションにより検討する。	事前学習	教科書 pp. 112～125 を読んで、不登校について調べ、説明できるようにしておく。
		事後学習	不登校と教育相談で学んだ内容について、ポイントをまとめる。
第13回	いじめ、非行および虐待と教育相談 いじめのメカニズムを知る。また、非行および虐待とは何かを知り、その原因論について理解する。それぞれについて予防・開発的教育相談としての対策と治療・矯正的教育相談としての対策を理解し、資料（事例）について教育相談を行う際の目標の立て方や進め方について考え、グループディスカッションにより検討する。	事前学習	教科書 pp. 149～162 および pp. 126～139 を読んで、いじめや非行、虐待について調べ、説明できるようにしておく。
		事後学習	いじめ、非行および虐待と教育相談で学んだ内容について、ポイントをまとめる。
第14回	校内（園内）体制と組織的な取り組み 学校（幼稚園）における教育相談は、計画を作成し、校内体制の整備を図り、組織的に取り組むことが必要であることを理解する。	事前学習	教科書 pp. 176～185 を読んで、校内体制について調べ、説明できるようにしておく。
		事後学習	校内体制と組織的な取り組みで学んだ内容について、ポイントをまとめる。
第15回	関係機関との連携・協働 幼稚園・小学校が連携する地域の医療・福祉・心理等の専門機関について知り、協働の必要性和重要性について理解する。授業のまとめを行い、最後に授業評価を行う。	事前学習	教科書 pp. 186～196 を読んで、関係機関との連携・協働について調べ、説明できるようにしておく。また第14回目までの授業内容を復習しておく。
		事後学習	地域の医療・福祉・心理等の専門機関との連携・協働で学んだ内容についてポイントをまとめる。また、授業全体を振り返り、学校現場で取り組む教育相談について、自分としてできることは何かについて考えてまとめる。